

えんべつの歴史を目で見る

遠別町郷土資料館



◎ご利用案内

開館期間 5月～10月

開館時間 午前9時～午後5時

※ 館員が常駐していませんので、ご利用を希望される3日前までに、下記へ連絡をお願いいたします。

・遠別町教育委員会

社会教育係 TEL 01632-7-2353

・ 遠別町郷土資料館の概要

遠別町の郷土資料館は、昭和59年9月に旧丸松小学校（昭和12年建設）を改修した施設であり、学校建設時から通算して74年がたち、厳しい遠別町の風雪に耐え、幾多の苦難をのり越え、今日の「遠別町」を築いた足跡の数々の資料を展示し、郷土の歴史及び文化の学習施設としている。

・ 遠別町郷土資料館の特色

手づくりの資料館であり、基本的には常に資料を入替えする展示公開施設というより、郷土資料の保存施設及び学習施設としての位置付けをしている。

・ 開拓小屋（おがみ小屋）

明治30年に愛知の団体が本原野（中央）に入植した時に、間口2.7m、奥行き5.4m（9畳）の笹茸小屋9戸を建て、19戸の家族が入居したものを再現している。

（※おがみ小屋は、地元「和楽会」の老人クラブのボランティアにより製作。）



・ 農業

記録では、明治21年に吉田五郎左衛門さんが幸和に入地し、農業開拓したのが、遠別の農業の始まりとされている。最初は馬鈴薯ぐらいしか収穫ができなかったが、作物の品種改良、農業技術の進歩等によりアスパラガス、メロンなども収穫できるようになった。

稲作は明治34年から南山仁太郎さんが共栄地区で試作に取り組み、再三の失敗にもめげず、明治36年に収穫をすることに成功した。

昔は、田植えはもちろんのこと、稲刈り、はさがけ、脱穀とすべて手作業だった。それから、農耕馬を使うようになり、現在はトラクターを使い、ライスセンターでの乾燥と機械作業が多くなって農作業はずいぶん楽になった。

日本の稲作の最北端としては美深町が有名だが、遠別町の方が緯度では北に位置し、遠別町清川が稲作の日本最北端である。

昭和57年に、より良質な米を生産するため、モチ米に移行して道内屈指のモチ米生産地として歩み続けている。

酪農は、明治30年に須藤善一郎さんが丸松地区に須藤牧場を発足させたのが始めとされている。昭和10年には遠別畜牛組合が設立、翌年には

集乳所が開設され酪農業が飛躍的に発展した。

・ 漁業

明治20年に白幡源太郎さんが富士見地区で漁業を始めたと記録されている。明治26年には歌越地区で伊勢福太郎さんが漁業を始めた。昭和28年には遠別漁港が着工されたが、昭和29年にそれまで春になると捕れていたニシンが捕れなくなり、本州や道内の漁師も来なくなった。

漁船は櫓漕ぎ船で、網を揚げるのも手作業であり、捕れた魚をカゴに入れて背負って運んでいた。また、魚等を養殖することもなかった。現在の船は、エンジンで動き網揚げも機械であり進路計なども付いている。遠別町では、昭和51年からホタテの稚貝放流に取り組んでいるほかサケの稚魚放流等も行っている。

・ 林業

遠別町の約88%が山林となっており、林業に携わっている人は平成12年度で25人となっている。遠別の山林には、トドマツ、ナラ、カンバなどが多く、昭和57年に町の木として、シラカンバ（白樺）を指定した。



・ 通信、交通

明治32年に遠別郵便局が開設し、昭和9年に電話業務が開始された。昭和48年までは、郵便局に電話の交換手がいて線をつなげていた。電話機も各家庭にはなく、昭和48年以降にダイヤル式になり各家庭に普及してきた。

鉄道は、昭和11年に遠別町～天塩町～幌延町の「天塩線」が開通し、昭和33年に遠別町～羽幌町の「遠羽線」が開通した。昭和37年に急行列車が運行されたが、その後、過疎化が進み昭和62年に羽幌線が廃止され、バス路線に転換となった。

・ 消防

明治44年に私設遠別消防義勇組が発足され、明治45年公設遠別消防組が発足し、腕用ポンプが購入された。昭和5年にガソリンポンプを導入。昭和22年に遠別消防団が設立され、昭和41年に消防団団舎が新設。昭和44年に水槽付き消防ポンプ車を購入し昭和50年に救急車が寄贈され救急業務を開始した。

館内図

